

スギタウスゲガムシの北海道初記録とウスゲガムシ属 に関する分類学的知見

保科英人

〒910-9507 福井県福井市文京 3-9-1 福井大学教育地域科学部
(hhoshina@f-edu.u-fukui.ac.jp)

New record of *Oosternum sugitai* Hoshina, 2009 (Coleoptera: Hydrophilidae) from Hokkaido, with taxonomic note on the genus *Oosternum*

Hideto HOSHINA

ウスゲガムシ属 *Oosternum* 属は、ハバビロガムシ亜科 Sphaeridiinae 亜科に含まれる一群で、いわゆる陸生ガムシと呼ばれるグループに属する。近年、陸生ガムシは、チェコの Martin Fikáček が精力的に分類学的研究を進めていて、*Oosternum* 属に関しては、中南米産種の再検討を行っている (Fikáček *et al.*, 2009; Fikáček & Hebauer, 2009)。日本産については、筆者と、故佐藤正孝名古屋女子大学名誉教授が、細々ながらも知見を積み上げ (Hoshina & Satô 2004, 2005; Hoashina, 2009)、現在、日本からは 5 種が知られている。なお、文末にはこの 5 種のリストを付した。

この 5 種のうち、スギタウスゲガムシ *O. sugitai* Hoshina, 2009 は、今まで福井県大野市からしか採集されていなかったが、筆者は、2011 年 7 月に、北海道南部において、本種を落ち葉ふるいによって採集したので、本稿で記録することとした。

2 exs., 北海道北斗市 (旧上磯町) 上磯ダム周辺, 21. vii. 2011, 筆者採集; 2 exs., 北海道北斗市 (旧上磯町) 茂辺地, 21. vii. 2011, 筆者採集; 3 exs., 北海道北斗市 (旧大野町) 木地挽山, 22. vii. 2011, 筆者採集。

本種は、タケダウスゲガムシ *O. takedai* Hoshina *et al.*, 2005 に似るが、前胸背板の点刻が大きく高密度で、表面は平滑である。一方、タケダウスゲガムシは、点刻は小さくてやや疎、そして表面は微印刻状であることから区別できる。

ここで、佐藤 (1985) に掲載図示されている *Oosternum* 属の 2 種、ホルンケシガムシ *O. horni* d'Orchymont, 1914 と ホソケシガムシ *O. sorex* (Sharp, 1874) について、触れておきたい。Hansen (1999) は、*Oosternum* 属および近縁属の再検討を行い、このうち日本産種に関連した部分を要約すると、1) 従来 *O. horni* とされていた種は、*O. sorex* のシノニムである、2) *O. sorex* は、*Oosternum* 属ではなく、*Paroosternum* 属に含まれるべき種である、3) Sharp

(1884) は、George Lewis によって長崎から採集された陸生ガムシの標本を *O. sorex* と同定したが、これは誤りであり、この長崎産標本は、中国から記載された *O. soricoides* d'Orchymont, 1914 である、となる。これを、Hansen (1999) が発表した当時の日本産関連属の種リストとして記すと、以下のようになる。

Paroosternum sorex (Sharp, 1874) (= *Oosternum horni* d'Orchymont, 1914)

分布：インド、中国、台湾、スリランカ、日本、ザイール、ハワイ (ただし、ザイールとハワイは、人為的分布)。

Oosternum soricoides d'Orchymont, 1914

分布：中国、日本 (長崎)。

以上を見るとわかるように、日本産関連属の種は、なかなか複雑な経緯をたどっており、問題は、学名に対応する和名を何にするかである。*O. sorex* の和名ホソケシガムシを、そのまま *P. sorex* の和名にスライドさせるのが通常のやり方であろうが、佐藤 (1985) の図鑑の影響力は大きく、従来ホルンケシガムシ *O. horni* とは別の種としてホソケシガムシが認知されてきただけに、「ホソケシガムシ」なる名称をそのまま *P. sorex* = *O. horni* の和名として継続させるのが、果たしてよいのかどうか疑問が残る。各地の地方目録に登場する「ホソケシガムシ」は、相当雑多なものが混じっていることは想像に難くない。かつて、筆者は、「図鑑に載っているがゆえに、各地で記録されている種のうち、同定に信用が置けない微小甲虫は、和名を変えた方が都合がよい場合もあるのではないか。つまり、旧和名で記録されたものは、強制的にリセットしてしまえ」と、挑戦的なことを書いたことがある (保科 & Jałoszyński, 2003)。筆者個人としては、過激なことを書いたつもりだったが、これに関して

は、賛成とも反対とも、何かしらの意見を頂戴した記憶がない。この拙文は、所詮はクシャミをすれば吹き飛んでしまう体サイズのコケムシの概説文にすぎず、誰も熟読していただけなかったからであろうと推察する（かなり自虐的発想だが）。これが、ルリクワガタの和名に関するものなら、五体無事ではすまなかったかもしれない。いずれにせよ、和名変更に関しては、様々な見解があるだろうし、本稿では、*P. sorex* の和名については、あえて決定しないでおくこととしたい。このほか、*O. soricoides* が、本当に日本に分布しているのかどうかについては、筆者としてはかなり疑念を持っているのだが（Hoshina & Satô, 2005）、それについては、別稿に譲ることとしたい。

最後に、日本産の *Oosternum* 属と *Paroosternum* 属の区別点について、説明しておく。*Oosternum* 属は、前胸腹板突起が扇型に近い形状であるのに対して（図 1。ただし、中央部の隆線は、種によって高低の違いがある）、*Paroosternum* 属は、両側が内側に深く切れ込んでいる（図 2）。また、*Oosternum*

属では、後胸腹板に、中脚基節から側方へ延伸する隆線があるが（図 3 A）、*Paroosternum* 属ではそれが無い。さらに、*Paroosternum* 属は、後腿節線が、後胸腹板中央部の五角形状の腹板突起の側縁から中胸腹板の方へ明瞭に延伸するが（図 4 B）、*Oosternum* 属では、それが無いか、不明瞭となる。このように、両属の区別は、背面から観察しただけでは困難であるが、腹側から見れば、差は明らかである。関心がある方は、標本を台紙に糊付けする前に、あらかじめ 2 属を分けておくことをお勧めする。なお、*Oosternum* 属では、後胸腹板の横の隆線は「波状に曲がる」か「ほぼまっすぐ」か「先端が曲がって後方を向く」か「ほぼ垂直に、腹板側縁と交わる」か等が、種の識別上重要な形態的特徴となる。

日本産 *Oosternum* 属の種のリスト

イシガキウスゲガムシ *Oosternum shigehisai* Hoshina et Satô, 2004

分布地：琉球列島（石垣島）。

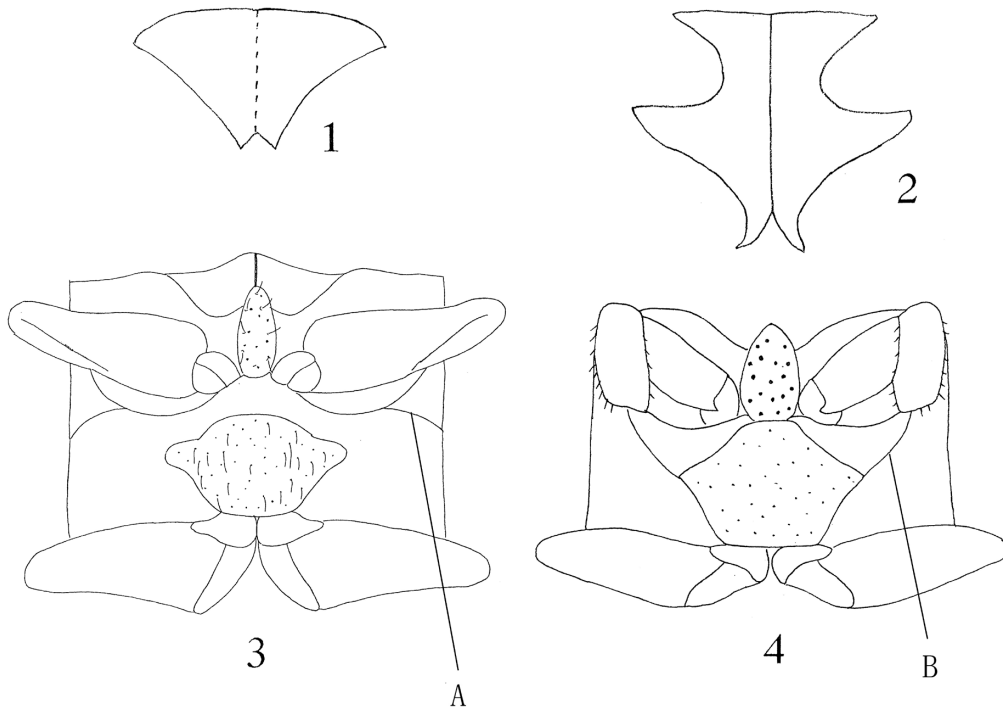


図1-2. 前胸腹板突起（1： *Oosternum toshiiei* Hoshina et Satô；2： *Paroosternum sorex* (Sharp)）；図3-4. 中胸-後胸腹板（3： *O. sugitai* Hoshina；4： *P. sorex*）。

タイリクウスゲガムシ *Oosternum soricoides*
d'Orchymont, 1941

分布地：中国，九州（？）.

スギタウスゲガムシ *Oosternum sugitai* Hoshina, 2009

分布地：本州（福井県），北海道（初記録）.

タケダウスゲガムシ *Oosternum takedai* Hoshina et
Satô, 2005

分布地：本州（福井県）.

トシイエウスゲガムシ *Oosternum toshiiei* Hoshina et
Satô, 2004

分布地：本州（石川県）.

注）このほかにも，現在，投稿準備中の未記載種がある.

引用文献

- Fikáček, M. & F. Hebauer, 2009. Taxonomic revision of the New World species of the genus *Oosternum* Sharp (Coleoptera: Hydrophilidae: Sphaeridiinae) II. The *Oosternum convexum* species group. Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae, 49: 10–117.
- Fikáček, M., & F. Hebauer, & M. Hansen, 2009. Taxonomic revision of the New World species of the genus *Oosternum* Sharp (Coleoptera: Hydrophilidae: Sphaeridiinae) I. Definition of species groups and revision of the *Oosternum aequinoctiale*

group. Zootaxa, 2054: 1–37.

Hansen, M., 1999. Taxonomic changes in the genera *Oosternum* Sharp and *Parooosternum* Scott (Coleoptera: Hydrophilidae). Entomologica Scandinavica, 30: 241–242.

Hoshina, H., 2009. Description of a new species of the genus *Oosternum* (Coleoptera: Hydrophilidae) from Fukui Pref., Honshu, Japan. The Memoirs of the Research and Education Center for Regional Environment, Fukui University, (16): 1–5.

保科英人 & P. Jalszyński, 2003. 日本産コケムシ科の属への絵解き検索. 甲虫ニュース, (144): 7–13.

Hoshina, H. & M. Satô, 2004. Two new species of the genus *Oosternum* (Coleoptera: Hydrophilidae) from Japan. The Memoirs of the Research and Education Center for Regional Environment, Fukui University, (11): 9–15.

Hoshina, H. & M. Satô, 2005. Taxonomic notes of the genus *Oosternum* (Coleoptera: Hydrophilidae) from Japan. The Memoirs of the Research and Education Center for Regional Environment, Fukui University, (12): 1–9.

Sharp, D., 1884. The water-beetles of Japan. Transactions of the Entomological Society of London, 1884: 439–464.

佐藤正孝, 1985. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝（編），原色日本甲虫図鑑 (II). ガムシ科. p 209–216. 保育社. 514 pp.

（2011年9月18日受領，2011年11月6日受理）

【短報】愛媛県におけるヨコミゾドロムシの追加記録

ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp, 1888 は，河川下流域の流木や植物の根際，平地の湧水のある植生豊かな池，河川敷の水たまりなどに生息していることが知られている（林，2007）. 主な生息環境が平野部や河川下流域にあることから，環境の改変等の人的干渉によって生息地は減少傾向にあり，環境省のレッドリスト（2007）では絶滅危惧Ⅱ類に選定されている.

愛媛県における本種の既知記録は3例と少なく，大洲市肱川町 Gotanji (Satô, 1959)，宇和島市三間町（渡部，2010），および松山市重信川（河口から1.0 km～17.2 kmの間）（国土交通省，2006）のみである. そのうち2例（Satô, 1959；渡部，2010）は，1個体のみの記録である. 筆者らは，愛媛県において

本種を複数個体採集しているので報告する.

3頭，松山市市坪西町，21. V. 2011，岩田朋文採集・保管；16頭，同所上流，16. VIII. 2011，吉富博之採集 (E15)；1頭，鬼北町西仲，10. X. 2009，吉富博之採集.

なお，松山市市坪西町は重信川の堤外にある池と，重信川の本流，鬼北町西仲は砂礫質の小河川である.

引用文献

環境省，2007. 昆虫類レッドリスト. <http://www.env.go.jp/houdou/gazou/8886/10251/2774.pdf> [2011年5月21日参照].

林 成多，2007. 島根県産水生甲虫類の分布と生態. ホシザキグリーン財団研究報告，(10): 77–113.

国土交通省，2006. 重信川水系の流域及び河川の概要（案）. (PDF, 77 pp.) http://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/shaseishin/kasenbunkakai/shouinikai/kihonhoushin/060327/pdf/ref5-2.pdf#search=重信川河川水辺の国勢調査 [2011年9月6日参照].

Satô, M., 1959. Some aquatic beetles unrecorded from Shikoku, Japan (Coleoptera). Transaction of Shikoku entomological Society, 6: 64.

渡部晃平，2010. 愛媛県でヨコミゾドロムシを採集. 四国虫報，(42): 21.

（岩田朋文・吉富博之 790-8566 松山市樽味3-5-7 愛媛大学農学部昆虫学研究室）



図1. 市坪西町産のヨコミゾドロムシ（左）と生息環境（右）.